

手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議 (平成27年度第4回)

日時：平成28年2月29日（月）午前10時～11時30分
場所：鳥取県庁 特別会議室（議会棟3階）

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 報告事項

- (1) 第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園基本計画について（資料1）

4 議 題

- (1) 第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園開催要項について（資料2）
- (2) 第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園予選審査及び
本大会出場チーム選考実施要領について（資料3）
- (3) 第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の来場者の入場方法について（資料4）

5 その他

- (1) 今後の日程について（資料5）
- (2) 予算の執行状況について（資料6）

6 閉 会

第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 基本計画

- 1 目的 ろう者と聞こえる人が互いを理解し共生することができる社会を築く「鳥取県手話言語条例」の理念を実現すべく、全国の高校生が手話を使った様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話を身近なものとして理解してもらうとともに、手話とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的に、「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を鳥取県で開催する。
- 2 日時 平成28年9月25日（日）午前9時30分から午後4時30分まで（時間は予定）
- 3 主催 手話パフォーマンス甲子園実行委員会
- 4 共催 鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会
- 5 特別協賛 日本財団
- 6 特別協力 一般財団法人全日本ろうあ連盟
- 7 後援（予定） 内閣府、厚生労働省、文部科学省、倉吉市、一般社団法人日本手話通訳士協会、一般社団法人全国手話通訳問題研究会、全国聾学校長会、全国高等学校文化連盟、朝日新聞厚生文化事業団、NHK 厚生文化事業団、社会福祉法人全国社会福祉協議会、全国難聴児を持つ親の会、日本演劇教育連盟、朝日新聞社、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、産経新聞社、日本経済新聞社鳥取支局、新日本海新聞社、山陰中央新報社、中国新聞鳥取支局、共同通信社鳥取支局、時事通信社鳥取支局、NHK 鳥取放送局、BSS 山陰放送、日本海テレビ、TSK 山陰中央テレビ、テレビ朝日鳥取支局、鳥取県ケーブルテレビ協議会、(株)エフエム山陰、FM 鳥取、DARAZ FM
- 8 参加資格 高等学校・特別支援学校高等部に在籍する生徒（学校長の推薦書必要）
- 9 内容 手話を使った歌唱、ダンス、演劇、ポエム、コント、落語など
- 10 出場 予選審査会を通過した20チーム（地方ブロック枠6、得点順枠13、開催地枠1）
- 11 スケジュール
- (1)開催告知 平成28年2月15日（月）
- (2)申込期間 平成28年5月9日（月）～6月30日（木）
※予選審査用ビデオ動画の提出期限：7月25日（月）
- (3)予選審査 平成28年8月9日（火）（鳥取市内開催）
※審査員4名によるビデオ審査。
- (4)本大会

日時	平成28年9月25日（日）午前9時30分～午後4時30分（時間は予定）
場所	倉吉未来中心 大ホール（鳥取県倉吉市駄経寺町212番地5）
プログラム	1 開会式（関係者挨拶、優勝旗返還、選手宣誓、チーム紹介） 2 出場チーム演技（演技時間：1チーム当たり8分以内） 3 ゲスト演技（手話パフォーマー） 4 審査発表（審査員6名） 5 表彰式（賞状等授与） 6 総評 7 閉会
収容人数	最大1,500人

※前日の9月24日に同会場にてリハーサルを行う。

- (5)表彰 優勝、準優勝、第3位、審査員特別賞、全日本ろうあ連盟賞、日本財団賞

12 交流会

日 時	平成 28 年 9 月 24 日（土）午後 6 時～午後 8 時（時間は予定）
場 所	鳥取県中部地区（予定）
参加者	出場チーム（生徒、引率者） 来賓 司会、審査員、ゲスト 実行委員会委員 その他大会関係者
プログラム	挨拶 乾杯 ゲストアトラクション 出場チーム抱負 審査員長エール 歓談
予定人数	250 名

13 その他

(1) 手話パフォーマンス甲子園応援自動販売機の設置

平成 28 年 1 月 14 日（木）に公益財団法人鳥取県聴覚障害者協会（東部聴覚障がい者センター）が入居する鳥取市文化センター（鳥取県鳥取市吉方温泉三丁目 701 番地）1 階に第 1 号機を設置した。この自動販売機は、以下の 2 つの効果が期待されるものである。

ア 大会 PR

大会のイメージをモチーフにした目を引くデザインで、広告塔の効果が期待できる。

イ 活動支援金（市民による募金箱）

売上の一部（最大 20%）が大会の活動支援金として、実行委員会の収入となる。市民からの募金箱としての役割を期待することができる。



資源回収BOX側面 資源回収BOX本体 自販機本体 自販機側面

今後、より多くの設置が実現できるよう関係団体等へ働きかけを行う。

(2) 大会への参加

第 1 回大会は 41 チーム（41 校）、第 2 回大会は 47 チーム（50 校）の応募があった。第 3 回大会に向けて、さらに多くの高校生が参加できるよう PR 活動や参加の働きかけを行う。

(3) 観覧者について

第 2 回大会は予想を上回る来場があり、やむを得ず、入場制限を行うこととなった。このことから、特に鳥取県外から来場したにもかかわらず入場できないという事態を防ぐため、第 3 回大会は、会場を大きくし、多くの方に入場していただけるようにする。

また、それでも会場に入場できない観覧希望者のため、自由に観覧できるサテライト会場を会場外に設けることとする。

(4) 協賛について

第 2 回大会では、20 団体・個人から計 1,038,704 円（その他、物品の提供もあり。）の協賛をいただいた。第 3 回大会に向けて、さらに多くの企業等から大会の趣旨に賛同いただき、協賛を得られるよう働きかけを行う。

第 3 回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 開催要項

1. 目的 ろう者と聞こえる人が互いを理解し共生することができる社会を築く「鳥取県手話言語条例」の理念を実現すべく、全国の高校生が手話を使った様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話を身近なものとして理解してもらうとともに、手話とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的に、「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を鳥取県で開催する。

2. 大会概要

- (1) 大会名 第 3 回全国高校生手話パフォーマンス甲子園（以下「本大会」という。）
 (2) 日時 平成 28 年 9 月 25 日（日）午前 9 時 30 分から午後 4 時 30 分まで（時間は予定）
 (3) 会場 倉吉未来中心 大ホール（鳥取県倉吉市駄経寺町 212 番地 5）
 (4) 出場 予選審査を通過した 20 チーム
 (5) 内容 以下のとおり

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ①開会式（関係者挨拶、優勝旗返還、選手宣誓、チーム紹介） ②出場チーム演技（演技時間：1 チーム当たり 8 分以内） ③ゲスト演技（手話パフォーマー） ④審査発表（審査員 6 名） ⑤表彰式（賞状等授与） ⑥総評 ⑦閉会 |
|--|

3. 主催 手話パフォーマンス甲子園実行委員会
 4. 共催 鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会
 5. 特別協賛 日本財団
 6. 特別協力 一般財団法人全日本ろうあ連盟
 7. 後援（予定） 内閣府、厚生労働省、文部科学省、倉吉市、一般社団法人日本手話通訳士協会、一般社団法人全国手話通訳問題研究会、全国聾学校長会、全国高等学校文化連盟、朝日新聞厚生文化事業団、NHK 厚生文化事業団、社会福祉法人全国社会福祉協議会、全国難聴児を持つ親の会、日本演劇教育連盟、朝日新聞社、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、産経新聞社、日本経済新聞社鳥取支局、新日本海新聞社、山陰中央新報社、中国新聞鳥取支局、共同通信社鳥取支局、時事通信社鳥取支局、NHK 鳥取放送局、BSS 山陰放送、日本海テレビ、TSK 山陰中央テレビ、テレビ朝日鳥取支局、鳥取県ケーブルテレビ協議会、(株)エフエム山陰、FM 鳥取、DARAZ FM

8. 参加資格

- (1) 平成 28 年度に高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）又は特別支援学校高等部に在籍していること。
 (2) 本大会に参加することについて、在籍する校長の承認が得られていること。また、参加する生徒について、校長の推薦が得られていること。
 (3) 本大会に参加するに当たって、原則として在籍する学校の教職員が引率できること。
 (4) 原則として、本大会の全日程に参加できること。

9. チーム編成

1 チームの編成は、同一校又は複数校で編成する連合チームの生徒及び引率者とし、生徒は演技者の他、必要に応じて介添えや演技の補助者も含めることができるものとする。人数は最大で生徒 20 人以内、引率者 10 人以内とする。なお、同一校からの複数チームの応募は認めるが、本大会に出場できるのは予選審査で同一校中、最上位であったチームのみとする。

10. 演技内容

- (1) 手話を使った歌唱、ダンス、演劇、ポエム、コント、落語、漫才などのパフォーマンスで、表情も含め手話を正確に使いながら、伝えようとする意志をしっかりと持ち、工夫された演出や構成と豊かな表現力により演じられるものとする。
- (2) 演技時間は、8分以内とする。
- (3) 情報保障の観点から、演技の中、歌詞やセリフ等には字幕を必ず表示させること。
- (4) 演技の補助として、準備に時間を要しない簡単な小道具、舞台装置、背景、スクリーン等のみ使用を認める。
- (5) 手話を観客等に見やすくするため、演技は間口10メートル、奥行5メートル程度のエリアで行うこと。

11. 審査方法

- (1) 主催者が委嘱した審査員が審査及び採点を行う。
- (2) 審査員は、予選審査会4名、本大会6名から構成し、審査員の中から主催者が審査員長を選出する。
- (3) 予選審査は、応募チームが提出した演技動画により審査員が行う。
- (4) 予選審査会及び本大会の審査基準、採点方法、演技時間の計測方法等は、別途定める。

12. 応募方法

- (1) 申込期間 平成28年5月9日(月)から6月30日(木)まで
- (2) 提出書類 別紙のとおり
- (3) 補足事項
 - ア (2)の書類は、それぞれ押印の上、13.の応募先まで郵送で提出すること。
 - イ 本大会における参加者の個人情報等については、別添のとおり取り扱うので、同意の上応募すること。
 - ウ 予選審査用の演技動画の提出期限は7月25日(月)とする。まずは、6月30日(木)までに参加申込みを行うこと。

13. 応募先・問合せ先

〒680-8570 鳥取市東町一丁目220番地
手話パフォーマンス甲子園実行委員会事務局（鳥取県庁福祉保健部障がい福祉課内）
電話：0857-26-7682 FAX：0857-26-8136 Eメール：s-koushien@pref.tottori.jp

14. 参加料 不要

15. 助成金

出場チーム（生徒、引率者）に、次のとおり交通費、宿泊費の一部を助成する。

- ① 交通費（領収書必要）
実費相当額を助成（1チーム当たり250,000円を上限とする）
- ② 宿泊費（領収書必要）
実費相当額を助成（1チーム当たり50,000円を上限とする。）

16. 表彰

表彰区分は次のとおりとする。

- ① 優勝（賞状、優勝旗、メダル、副賞を授与する。）
- ② 準優勝（賞状、準優勝楯、メダル、副賞を授与する。）
- ③ 3位（賞状、メダル、副賞を授与する。）
- ④ 審査員特別賞（賞状、副賞を授与する。）
- ⑤ 全日本ろうあ連盟賞
- ⑥ 日本財団賞

17. 予選審査会

- (1) 日 程 平成 28 年 8 月 9 日(火)
- (2) 場 所 鳥取県鳥取市内で開催
- (3) 内 容 応募チームが提出した演技動画の審査を実施し、本大会に出場する 20 チームを選出する。
- (4) 結 果 当日、審査結果発表の様子についてライブ中継を行う。(当日夕方を予定。)
- (5) その他 審査結果発表後、本大会の演技の順番について抽選を行い、決定することとする。

18. 交流会

- (1) 日 時 平成 28 年 9 月 24 日(土)午後 6 時から 8 時まで(時間は予定)
- (2) 場 所 鳥取県中部地区で開催
- (3) 内 容 出場チームやその他大会関係者が一同に会し、食事を交えて参加者同士の交流を深めるもの。

19. スケジュール

- | | |
|-------------|--|
| 2 月 15 日(月) | 開催告知 |
| 3 月上旬 | 開催要項公表 |
| 5 月 9 日(月) | 参加申込み受付開始 |
| 6 月 30 日(木) | 参加申込み締切 |
| 7 月 15 日(金) | 参加者名簿等の提出締切 |
| 7 月 25 日(月) | 予選審査用動画の提出締切 |
| 8 月 9 日(火) | 予選審査会(結果発表、本大会演技順番、選手宣誓チーム決定) |
| 8 月 31 日(水) | ヒアリングシートの提出(演技内容の詳細(シナリオ、楽曲、使用機材・道具等)) |
| 9 月 24 日(土) | リハーサル(本大会と同会場)、交流会 |
| 9 月 25 日(日) | 本大会 |

20. その他

- (1) 参加者の交流を深める目的であることから、本大会前日の 9 月 24 日(土)に開催する交流会は、原則として参加すること。(参加費は不要。)
- (2) 9 月 24 日(土)に本大会と同会場でリハーサルを開催する。なお、各チームのリハーサルのスケジュールは、事務局にて指定することとする。
- (3) 受賞チームは、本大会閉会后、可能な限り報道機関等のインタビューに応じること。
- (4) 演技の字幕は、予選審査用動画においては映像の中に、本大会においては原則としてスクリーン(舞台後ろ)に表示させること。なお、字幕の表示はパフォーマンスの表現の一環であることから、引率者等が自ら行うこと。(主催者側でセリフの要約筆記等を行わない。)
- (5) 演技で使用する小道具及び会場にない設備を使用(特殊な照明や音響等)する場合(準備が 1 分以内に完了できるものに限る。)は、原則として各チームにおいて用意すること。なお、これらの使用については、本大会前に舞台監督と詳細を打ち合わせすることとする。
- (6) 予選審査用動画には、セリフや歌詞等に対応させた字幕を必ず付与すること。

(別添)

個人情報、肖像権及び著作権の取扱いについて

手話パフォーマンス甲子園実行委員会（以下「主催者」という。）は、「第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」（以下「大会」という。）における参加者の個人情報、肖像権及び著作権について、以下のとおり取り扱うこととします。

1. 個人情報

- (1) 大会公式プログラムに氏名、所属校、学年を掲載します。
- (2) 大会の会場でアナウンス、スクリーン等により氏名、所属校、学年を紹介することがあります。
- (3) 手話パフォーマンス甲子園公式サイト(Facebook, twitter, LINE, YouTube を含む。)及び大会報告書、PRビデオ等の主催者の制作物に氏名、所属校、学年を掲載することがあります。
- (4) 大会関係者、報道機関、後援団体、協力機関等に氏名、所属校、学年を情報提供することがあります。
- (5) (2)から(4)に記載した方法により、大会結果（チーム成績を含む。）とともに参加者の氏名、所属校、学年を公表することがあります。
- (6) 参加者から提供されたすべての個人情報は、大会出場に係る連絡及び通知、大会に関する統計（個人を特定できない範囲での利用とする。）等、大会に関する目的で使用することがあります。

2. 肖像権及び著作権

- (1) 大会プログラム及び手話パフォーマンス甲子園公式サイトに参加者から提供された写真を掲載します。
- (2) 1の(2)から(4)に記載した方法により、参加者から提供された写真を公表することがあります。
- (3) 主催者、報道機関、後援団体、協力機関等により撮影された参加者の映像が、中継、放送及びインターネット配信により公開されることがあります。また、当該映像がDVD等に編集され、配布されることがあります。
- (4) 主催者、報道機関、後援団体、協力機関等により撮影された参加者の写真（電子データを含む。）が新聞、雑誌、大会報告書等の印刷物及びインターネット等に掲載されることがあります。
- (5) 主催者が撮影した映像及び写真を大会関係者、報道機関、後援団体、協力機関等に提供することがあります。
- (6) その他、主催者に許可を受けた者によって撮影された映像及び写真が公開されることがあります。
- (7) 主催者が撮影した映像及び写真の著作権は主催者に帰属するものとし、当該映像及び写真の利用及びこれに伴う編集、改変についての異議申し立て等は受け付けません。

3. 主催者としての対応

主催者が取得した参加者の個人情報は、上記利用目的以外に使用することはありません。ただし、主催者はお預かりした個人情報を取り扱う業務の一部または全部を外部に委託することがあります。

[別 紙]

第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園参加申込みに係る提出書類について

第3回大会の申込みにあたっては、3段階に分けて関係書類等を提出してください。

- (1) [6月30日まで] 予選参加申込書等の提出 (以下の①・②)
- (2) [7月15日まで] 参加者名簿等の提出 (以下の③・④・⑤)
- (3) [7月25日まで] 予選審査用動画等の提出 (以下の⑥・⑦)

提出物	様式	提出期限	提出方法	補足事項
①予選参加申込書	様式第1号	6月30日(木)	郵送 [紙面]	<ul style="list-style-type: none"> ・引率者(チーム代表者)が押印(私印)の上、提出してください。 ・申込者は、引率の代表者としてください。なお、申込者の方には、事務局と連絡調整を行っていただきます。 ・複数の学校により合同チームを結成する場合は、全ての学校名(正式名)を記載してください。 ・公表するチーム名は学校名とします。なお、この場合、〇〇県立△△高等学校(公立)、学校法人〇〇学園□□高等学校(私立)の〇〇は省略し、高等学校名のみ表記します。
②校長承認及び推薦書	様式第2号	6月30日(木)	郵送 [紙面]	<ul style="list-style-type: none"> ・校長印(公印)を押印の上、提出してください。 ・本校とは別に分校やキャンパスがある場合は、その分校やキャンパスの長の承認及び推薦を受けてください。なお、この場合でも必ず公印を押印してください。
③予選参加者名簿	様式第3号	7月15日(金)	メール [データ]	<ul style="list-style-type: none"> ・校長の推薦が得られた生徒を参加させてください。 ・提出後の参加者の修正も可能ですが、この場合でも、最終的に予選審査動画の演技者と参加者を一致させてください。 ・予選参加者は、原則として、本大会に参加できる生徒としてください。
④演技概要	様式第4号	7月15日(金)	メール [データ]	<ul style="list-style-type: none"> ・提出時点の演技情報の概要を提出してください。(⑦の提出の際に内容の変更は可)
⑤チーム紹介文	様式第4号	7月15日(金)	メール [データ]	<ul style="list-style-type: none"> ・100文字以内としてください。 ・本大会出場チームは、大会HPに掲載します。
⑥演技情報	様式第5号	7月25日(月)	メール 又は郵送 [データ]	<ul style="list-style-type: none"> ・提出する予選審査動画の演技情報を記載してください。(電子データで提出) ・電子ファイルを記憶媒体に保存して⑦のDVDを郵送する際に併せて提出するか、別途、メールで提出してください。
⑦予選審査動画(演技)	—	7月25日(月)	郵送 [データ]	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細は、別添の「第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園予選審査動画撮影要領」をご確認ください。なお、同要領に定められたルールのとおり撮影されていない場合、失格又は減点となる可能性がありますので、ご注意ください。 ・映像をDVDに入れて郵送してください。 ・提出を受けた映像により、予選審査を行います。
チーム集合写真(本大会出場チームに限る。)	JPEG形式 (カラー)	8月12日(金)	メール [データ]	<ul style="list-style-type: none"> ・横640×縦480ピクセル以上の解像度、フルカラー ・参加者名簿に掲載されている生徒が全て写っている写真としてください。 ・⑤と併せて、大会HP上にチーム写真を掲載(公開)します。 ・本大会出場チーム決定後、速やかに提出してください。

[応募、お問合せ先] 手話パフォーマンス甲子園実行委員会事務局(鳥取県福祉保健部障がい福祉課内)

住所: 〒680-8570 鳥取県鳥取市東町1丁目220番地

電話: 0857-26-7682 , ファクシミリ: 0857-26-8136 , メールアドレス: s-koushien@pref.tottori.jp

【動画映像のイメージ】



《撮影ルール》

- ・平成28年4月1日以降に撮影されたもので、3分以内の動画とすること。
- ※ 提出する動画ファイル自体の長さを3分以内とすること。すなわち、演技前の余韻や紹介、演技後の余韻時間等があれば、それらも全て含めて、3分以内とすること。
- ※ ルールに沿った撮影とするため、予選審査専用撮影が望ましい。
- ・画面は、横縦比を16:9とすること。(4:3ではない)
- ・全てのセリフや歌詞に対応する字幕を入れること。
- ・演技者及び手話がよく見えるよう明度を確保すること。
- ・演技者の全身を表示させること。ただし、前後の列となる場合の後列の演技者や着席している場合は、少なくとも上半身(腰より上)を表示させること。
- ・演技者の正面でカメラを固定して撮影すること。演技中、ズームやワイド等の倍率の変更及びカメラを移動させて撮影することは不可とする。
- ・予選審査においては、背景による演出は不可とする。ただし、演技の構成上、映像や写真等が必要な場合にスクリーン等を使用することは認める。
(例: 観光地の紹介に写真を投影する、パワーポイントの説明をする 等)
- ・動画のファイル形式はAVI,MPEG,MP4,WMV のいずれかとし、解像度は720px×480px 以上、1920px×1080px以内とすること。
- ・DVDディスクに動画ファイルを保存して提出すること。

【字幕の補足事項】

- ・字幕は、概ね下から縦1/6以下、横は左右1/8以上を空けたスペースに表示させること。
- ・見やすい大きな文字とすること。
- ・フォントはゴシック体、色は白文字を基本とすること。(ただし、背景が白い場合、枠が黒い白抜き文字か、灰色等文字色とすること。)
- ・セリフ(歌)のタイミングに対応させた字幕(歌詞)を表示させること。
- ・字幕は停止(固定)画像とし、セリフのタイミングに合わせて、一定時間、表示させること。

【映像の見本】※上記記載事項に基づくと、演技者の中心をもう少し上に配置させればベスト！



撮影方法や字幕の入れ方、その他ご不明な点ありましたら、以下までお気軽にお問い合わせください！

【問合せ先】大会実行委員会事務局
電話: 0857-26-7682
ファクシミリ: 0857-26-8136
メールアドレス: s-koushien@pref.tottori.jp

第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園参加申込書

平成28年 月 日

手話パフォーマンス甲子園実行委員会 会長 様

学校名等：

氏 名：

⑩

校長の承認及び推薦書を添えて、本書のとおり第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園に参加申込みをします。

【参加学校の情報】

学校名（正式名）	ふりがな	住所
		〒 —
		〒 —
		〒 —
		〒 —

※ 複数の学校で参加する場合は、全ての学校を記入してください。

(次ページに続く)

【引率者（チーム代表者）の情報】

ふりがな	
学校名（正式名）	
ふりがな	
氏 名	
所属等 （学校名、役職、 部（サークル名）及びその役職等）	
電話番号	
緊急連絡先（携帯）	
メールアドレス	

※ 基本的に、引率の代表者を申込者としてください。また、申込者の方に事務局と連絡調整をしていただくことになります。

第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園承認及び推薦書

平成28年 月 日

手話パフォーマンス甲子園実行委員会 会長 様

学校名：

所在地：

校長名：

⑩

本校の生徒が「第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」（以下「大会」という。）へ参加することを承認するとともに、別途報告する本校の生徒を大会の参加者として推薦します。

- ※ 複数の学校による合同チームの場合は、全ての校長について提出してください。
- ※ 校長印（公印）を押印して提出してください。

第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 予選参加者名簿

【参加者の概要】

参加 学校数	参加者数	参加者の内訳			引率
		生徒	男	女	
	0	0			

← 男・女(生徒)及び引率者の人数を入力。

【参加者一覧】

生徒、 引率	No.	学校名	氏 名		ふりがな		学年	性別	備 考
			姓	名	姓	名			

- ※1 参加生徒は、全て校長の推薦が得られた生徒としてください。
- ※2 本書を提出後もメンバーの変更は可能です。この場合、速やかに本書の修正版を提出してください。
(新しく生徒を追加する場合は、まずは校長の推薦を得てください。)
- ※3 予選参加者は、原則として、本大会に参加できる生徒としてください。
- ※4 演技を行わない生徒がいる場合は、備考欄にその役割を分かりやすく記載してください。
(例:障がいのある生徒の介助者、舞台操作を担当する生徒 など)

第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 演技情報

【回答者情報】

氏名	
学校名	
連絡先	(0) -
メールアドレス	

【演技内容】

①	演技の分類	歌	演劇	ダンス	落語	漫才	その他 []
②	演技タイトル						
③	演技のコンセプト (300文字以内)						
④	動画ファイルの再生時間 (3分以内)	分	秒				
⑤	使用楽曲	①	歌手名				
			曲名				
		②	歌手名				
			曲名				
		③	歌手名				
			曲名				
⑥	使用予定機材等						

【補足事項】

①演技の分類	該当する分類に「○」を入力してください。なお、例示している分類に当てはまらない場合は「その他」を選び、具体的な分類を端的に入力してください。
②演技タイトル	演技の内容を分かりやすく表現するため、演技タイトルを端的に表現してください。
③演技のコンセプト	審査員が審査を行うのにあたり、演技の意図をより深く理解するために記載していただくものです。
④再生時間	動画ファイルを3分以内としてください。 ※イントロでのチーム紹介や終了後の余韻時間も含め、全て演技時間に含めます。 ※3分を超える動画ファイルは、演技時間の超過となり減点対象となりますので、ご注意ください。
⑥使用予定機材	準備に時間を要しない簡単な小道具等のみ使用可能です。本大会で使用を予定している小道具等があれば記載してください。 なお、設置に1分以上を要するような大道具や機材等は認められませんので、ご注意ください。 また、会場にない設備等を使用したい場合は、原則として自チームで準備してください。 (設置に時間を要しないものに限る。) ※詳細は、本大会前に舞台監督と打ち合わせをしていただくことになります。

第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 予選審査及び本大会出場チーム選考実施要領

1 予選審査会の概要

- (1) 日程 平成28年8月9日(火)
- (2) 場所 鳥取県庁(鳥取県鳥取市東町一丁目220番地)
- (3) 補足
- ア 参加申込みが多数の場合、翌日10日(水)まで予選審査を行う場合がある。
 - イ 会場は変更する場合がある。
 - ウ 予選審査の結果発表は公開の上行くとともに、インターネット上でライブ中継する。

2 審査員

審査員は、ろう者2名及び聞こえる人2名の4名とし、このうち1名を審査員長とする。

3 審査方法

4の採点方法に基づき、各審査員が各チームの演技(動画)を審査、採点し、その合計を各チームの審査得点とする。

4 採点方法

- (1) 各審査員が、次の表に掲げる審査項目を担当項目別に採点する。

審査員	手話の正確性・ 分かりやすさ	演出力・ パフォーマンス度	総合的な表現力	合計
ろう者	(30点満点)	(30点満点)	/	(60点満点)
ろう者	(30点満点)	(30点満点)		(60点満点)
聞こえる人	/	/	(40点満点)	(40点満点)
聞こえる人			(40点満点)	(40点満点)
合計	(60点満点)	(60点満点)	(80点満点)	(200点満点)

- (2) 各審査項目の採点の観点は次のとおりとする。

ア 手話の正確性・分かりやすさ

セリフ(音声表現、字幕)と手話が正しく表現されているか。表情も使って分かりやすく表現されているか。演技者が表現したい内容が伝わり理解できるか。

イ 演出力・パフォーマンス度

チームとしての一体感があるか。機知に富み観客を魅了する表現力、ひたむきさがあるか。演技者が込めた思いやメッセージがしっかりと伝わってくるか。構成や演出がよく工夫されているかどうか。

ウ 総合的な表現力

セリフや字幕の内容を手話で正しく表現できているか。チームとしての一体感があるか。機知に富み観客を魅了する表現力、ひたむきさがあるか。演技者が込めた思いやメッセージがしっかりと伝わってくるか。構成や演出がよく工夫されているかどうか。

- (3) 演技等が次に該当する場合は、当該各号に記載のとおり失格又は審査得点から減点とすることとし、審査員の協議(減点の点数の定めがないものは、その点数も含む。)により決定する。なお、協議の結果、意見がまとまらない場合は、審査員長が決定する。

項 目	内 容
差別的表現、わいせつ表現、特定の個人・団体の誹謗中傷、その他公序良俗に反する内容が含まれる場合	失格
第三者の権利を侵害する内容が含まれる場合	失格
本大会では準備に大幅に時間を要する又は使用（再現）できないことが明らかな大道具、設備、演出等の使用	失格
動画の中に字幕が全くない場合	失格
動画制限時間（3分）の超過（1分超）	失格
動画制限時間（3分）の超過（1分以内）	10点減点
その他、定められた動画の撮影方法に反した場合※	10点減点
その他、不適切と認めた演技又は行為	失格又は減点

※ 「その他、定められた動画の撮影方法に反した場合」とは、以下のとおりとする。ただし、その違反の程度が軽微で、審査に影響がない場合を除く。

- ・ 演技者の正面で撮影していない場合。
- ・ カメラを固定せず、ズームやワイド等の倍率の変更及びカメラを移動させて撮影している場合。
- ・ 演技の構成上明らかに必要ないにもかかわらず、演技の演出に背景を使用していること。
- ・ 演技者の全身が表示されていない場合。ただし、前後の列となる場合の後列の演技者や着席している場合は、手話が見えるよう少なくとも上半身を表示させればよい。
- ・ 映像の明度が非常に低く、演技者の表情や手話がよく見えない場合。
- ・ 字幕が認識しづらい場合（文字の大きさが非常に小さい、文字色が薄い、背景と同化しているなど）。
- ・ 字幕を固定して表示していない（文字が流れる字幕表示をしている）場合。

5 本大会出場チームの選出

(1) 地方ブロック枠（6チーム）

応募チームを所在地別に6つの地方ブロック（北海道・東北ブロック、関東ブロック、中部ブロック、近畿ブロック、中四国ブロック、九州・沖縄ブロック）に振り分け、各ブロックで審査得点が最も高いチームを本大会出場チームに選出する。

(2) 得点順枠（13チーム）

(1) の選出チームを除き、審査得点が高い順に13チームを本大会出場チームに選出する。

(3) 開催地枠（1チーム）

(1) 及び(2) の選出チームを除き、開催地（鳥取県）の応募チームで審査得点が最も高いチームを本大会出場チームに選出する。

(4) 補足

ア 各地方ブロック内において応募がないとき又は(1) 及び(2) の選出チームを除き開催地で他に応募チームがないときは、そのチームの数を得点順枠の本大会選出チームの数に加えることとする。

イ 審査得点が同点となり、順位を審査得点では決められない場合は、審査員長が順位を決定する。

6 本大会での演技順

(1) 開催地枠の選出チームが最初に演技を行う。なお、開催地枠の選出チームがない場合は、(2) のAグループを10チームとする。

(2) 2番目以降の演技順については、残りの19の本大会出場チームを2つのグループに分け、審査得点が下位の9チームをAグループ、上位の10チームをBグループとして、各グループ内で演技順を抽選する。本大会ではAグループ、Bグループの順に演技する。

なお、当該抽選は予選審査結果の発表後に続いて行う。

7 予選審査結果の通知及び公表

- (1) 応募チームに対し、予選審査結果（本大会出場又は落選）、審査得点及び審査員評（審査員名は非公開）を通知する。ただし、失格又は辞退した応募チームについては、通知しない。
- (2) 本大会出場チームについては、チーム名及び審査得点を大会公式ホームページに掲載する。

8 その他

- (1) 予選審査結果の発表時に抽選を行い、選手宣誓を行うチームを決定する。
- (2) 予選参加の申込みを行ったものの、期限までに予選審査用の動画を提出しなかったチームは、失格とする。
- (3) 応募チームは、予選審査会の前日までに予選の参加を辞退することができる。

【別記】地域ブロックについて

ブロック名	都道府県名	ブロック名	都道府県名
北海道・東北ブロック	北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県	近畿ブロック	三重県 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県
関東ブロック	茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県	中国・四国ブロック	鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県
中部ブロック	新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県	九州・沖縄ブロック	福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県

第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の来場者の入場方法について

1 背景

第2回大会では、予想を上回る来場者があり、大会の開始前から会場に入場できない観覧希望者が多く出てしまいました。正午以降、退場者が出たことから、入れ替わりで入場できた方々もいましたが、入場できないことが分かった時点で会場を後にした方々も多くおられたことや、特に、県外からわざわざ観覧目的にお越しいただいたにもかかわらず入場できなかった方々にとっては、不満の残る結果となってしまいました。

[来場者が予想を上回った要因]

- ・シルバーウィーク中の開催であったこと
- ・佳子内親王殿下の御臨席（佳子内親王殿下への国民の関心・人気の高まり）
- ・大会の知名度向上に伴う来場希望者の増

2 第3回大会の対応

(1) 観覧席の増

第3回大会は第2回大会に比べ、会場を大きくし、収容人数を増やすこととします。

	第2回大会	第3回大会
会 場	米子市公会堂	倉吉未来中心大ホール
収容人数	全 1,127 席	全 1,503 席
一般観覧席	約 470 席	約 950 席（見込み）

⇒ 一般来場者の観覧席は第2回大会の2倍となる見込み。（多くの入場が可能となります。）

(2) サテライト会場の設置

第2回大会のような簡易的なものではなく、会場のアトリウムに、自由に観覧できるサテライト会場を設置します。

具体的には、音響設備に加え、200インチ以上のスクリーン（演技映像＋情報保障）を設置し、観客席として約300席を用意するとともに、立ち見用のスペースも確保するよう検討しています。

⇒ 会場に入場できない観覧希望者にも大会を楽しんでいただける環境を用意。

3 来場者の動向予想

手話パフォーマンス甲子園の知名度向上に伴い、来場希望者が増加することが考えられる一方、第3回大会は通常の日曜日（人によっては連休の最終日）であることから、シルバーウィーク中の開催であった第2回大会のような来場者が見込めるかどうか、予想することが難しい状況です。

4 入場方法

来場者の入場方法については、以下の方法が考えられます。

区 分	自由入場制（第2回大会と同様）	事前申込み制
メリット	来場者 ・誰でも入場可能。当日までいかなる状況においても入場の可能性あり。	・確実に入場が可能。 (安心感大。特に遠方からの来場者に効果が大きい。)
	主催者 ・当日まで入場者の管理が不要。事前準備に係る事務手続きの負担減。	・来場者数が明確。来場者対応の想定が容易。
デメリット	来場者 ・本当に入場できるかが不透明（不安感）。 ・確実に来場するためには当日、早い時間の来場が必要（負担感）。	・抽選漏れの危険性あり。 ・抽選漏れの場合や申込み期限後に入場を希望しても、入場不可となる。 ・入場に時間を要し、来場時間によっては、開始に間に合わない可能性あり。
	主催者 ・来場者の予測が不透明。対応策の十分な検討が必要。 ・第2回大会と同じ状況に陥る可能性あり。 ・入場できない観覧希望者の満足度の低下。 (特に遠方からの来場者へのフォローが必要)	・申込み対応の事務手続きの負担大。 ・個人情報の管理が必要。 ・来場しない申込者による空席の発生の可能性。 (入場可能者の減となる。来場者の不公平感が高まる。) ・座席の管理が煩雑。入場時に混雑・混乱の危険性あり。

※ 会場に入場できない場合でもサテライト会場で観覧できることは、事前に周知を図ることとします。

資料 5

第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園に係る今後の日程について

平成28年2月29日現在

日程	内容	備考
平成28年2月15日	実行委員会開催	第3回大会基本計画、収支予算・決算、実行委員会設置運営要項改正
平成28年2月29日	第4回企画推進会議	第3回大会開催要項、選考方法
平成28年3月	大会チラシ送付	全国の高等学校、特別支援学校
平成28年3~4月	大会チラシ、ポスター送付	<ul style="list-style-type: none"> ・全都道府県 (障がい福祉担当、教育委員会) ・各都道府県全国ろうあ連盟加盟団体 ・県内各市町村 ・県内公共施設 等
平成28年5月9日	参加申込み受付開始	予選審査動画の提出期限 (7月25日)
平成28年6月中下旬	第1回企画推進会議	実施計画、申込み状況、収支予算・決算、準備状況
平成28年6月30日	参加申込み期限	
平成28年8月9日	予選審査会	鳥取市内
平成28年8月下旬	第2回企画推進会議	予選審査結果、実施計画、準備状況
平成28年9月24日	第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 交流会、リハーサル	倉吉未来中心
平成28年9月25日	第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 本大会	倉吉未来中心
平成28年11月上旬	第3回企画推進会議	第3回大会開催結果の報告、意見交換
平成29年1月中旬	実行委員会総会	開催結果、大会総括、専決処分の報告、第4回大会基本計画、補正予算
平成29年2月中旬	第4回企画推進会議	第4回大会開催要項、選考方法

[参考] 2016年カレンダー



資料 6

平成28年度手話パフォーマンス甲子園実行委員会 (H28. 2. 15 開催) で承認。

平成27年度 手話パフォーマンス甲子園実行委員会補正予算

(1) 収入の部

(単位：円)

科目	当初予算額	補正額	累計	主な補正理由
助成金	27,870,000	0	27,870,000	—
負担金	7,575,000	816,000	8,391,000	第3回大会広報経費を計上したことに伴う増
協賛金	1,000,000	38,704	1,038,704	精算(実績)に伴う増 (計20の企業・個人)
雑入	938	123,364	124,302	精算(実績)に伴う増 (寄付金、預金利息)
計	36,445,938	978,068	37,424,006	

(2) 支出の部

(単位：円)

科目	当初予算額	補正額	累計	主な補正理由
実行委員会運営費	698,000	△298,000	400,000	精算(実績)に伴う増減 ※主に、大会運営委託業務 (大会運営費)において 広報等も含めて実施した ことによる。
広報宣伝費	4,096,000	△2,296,000	1,800,000	
大会準備費	1,467,000	△1,267,000	200,000	
大会運営費	30,184,938	4,839,068	35,024,006	
計	36,445,938	978,068	37,424,006	

手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議 出席者名簿
(平成27年度第4回)

役 職	所属 ・ 役職名	氏名 (敬称略)	出 欠 (代理：敬称略)
委員長	鳥取県福祉保健部長	松田 佐恵子	出
委 員	公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会 福祉・労働委員会委員長	諸家 紀子	欠
	公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会 事務局次長	戸羽 伸一	(代理出席)
	鳥取県手話通訳士協会	森原 早百合	出
	全国手話通訳問題研究会鳥取支部	国広 生久代	出
	鳥取県手話サークル連絡協議会	田中 優子	出
	社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会 専務理事	杉本 新二	出
	鳥取県教育委員会事務局教育次長	小椋 博幸	出
	鳥取県高等学校長協会長	藤原 辰広	出
	鳥取県私立中学高等学校長会長	山内 晃	欠
	鳥取県立鳥取聾学校長	藤田 則恵	出
	一般財団法人全日本ろうあ連盟 青年部長	廣田 喜春	出
	国立大学法人筑波技術大学 教授	大杉 豊	出
事務局	障がい福祉課長	小林 真司	\
	障がい福祉課社会参加推進室 室長	鈴木 俊一	
	障がい福祉課社会参加推進室 課長補佐	岡村 弘美	
	障がい福祉課社会参加推進室 係長	安永 孝文	